

神戸大学大学院経済学研究科におけるゼミ（演習）を希望される方へ（2025 年度）

2025 年 1 月 村上善道

ゼミに参加する院生の方への要望

神戸大学大学院経済学研究科のパンフレットに記載の通り、私のゼミではラテンアメリカをはじめとする発展途上国・新興国における経済改革、グローバル化、所得格差などに関する特定のテーマに関して文献調査を行い、マイクロデータやクロスカントリーデータを用いた実証研究を行うためのスキルを学びます。参加学生への要望は 1) 経済学研究科におけるコースワーク（ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学）に誠実に取り組むこと、2) データを用いた実証研究を行うこと、3) 英語で書かれた学術論文が読めることの 3 点です。

演習への参加を考える方は早めにメールでアポイントをとり、必ず 2025 年 4 月 4 日までにメールでアポイントをとり、オフィスアワー（面接）に来てください。

なお上記の通り、本学の経済学研究科の入学試験に合格している限り、取り立てて入学時点での経済学の特定科目に関する履修や学力は問いません。それよりも問題意識ややりたいテーマが明確であることと入学後、経済学研究科におけるコースワークに誠実に取り組むが重要と考えます。特に、計量経済学は、実証研究を行う上で最も大切な科目ですので、修士課程（博士課程前期課程）で修了する学生の方にも、「基礎計量経済学」だけではなく後期課程進学者の修了要件になっている「計量経済学 A」「計量経済学 B」の履修をお願いしています。また実証分析を行う上で計量ソフトの使い方を習得することも必須になりますので、Stata に関しては基本的な操作については私からも教えますが、必要に応じて「ミクロデータ分析」の履修もお願いします。

また、博士課程後期課程に進学を希望する場合は、修士論文は英語で執筆することを求め、博士課程前期課程で修了する場合も、修士論文を英語で執筆することを推奨します。研究者を志望するのであれば、英語の査読付きジャーナルに掲載をめざして研究を行うことは不可欠であり、そのためにも論文は最初から英語で書くことが望ましいと考えるからです。英語に関しては、私のほうでも添削を行います。

ゼミにおいて指導可能な研究領域について

私の専門領域はチリを中心としたラテンアメリカ経済に関する実証研究であり、経済学のディスプリンとしては概ね開発経済学と貿易実証に相当します。従って、これらの 3 つのうちどれか、特に 2 つ以上に関心があるのであれば、私のゼミと適合する可能性は高いと思います。しかしラテンアメリカ経済論、開発経済学、貿易実証といってもそれぞれが膨大な分

野であり、これらの分野であればなんでも私に指導可能と言うわけでは勿論ありません。

私の研究業績からも明らかなように、私のこれまでの主たる研究領域は、①ラテンアメリカおよびチリにおけるグローバル化（特に貿易自由化）と所得（賃金）格差に関する研究、②チリにおける教育の収益率と賃金格差に関する研究、③ラテンアメリカにおける地域経済統合と中間財貿易に関する研究、④チリにおける海外直接投資（FDI）企業のグローバル・バリューチェーン（GVC）における位置と中間財の現地調達に関する研究、などになります。その他、ジャーナルに掲載されたものとして FDI と GVC に関するサーベイ論文があります。

従って、ラテンアメリカの特定の国に関するグローバル化（貿易自由化、FDI、GVC 等）の賃金や生産性等へのミクロ的な影響に関して家計調査データや企業データ等のマイクロデータを利用した研究、また労働市場（教育の収益率や賃金格差等）に関して家計調査データ等のマイクロデータを使用した研究に関心のある人にこのゼミは最も向いていると思います。ラテンアメリカを対象とした研究であれば上記のトピックと関連が強くなくてもできるだけお引き受けしたいと考えますし、マイクロデータを用いたいいわゆる「ミクロ実証」の範囲の研究であれば、指導は可能であると思います。

一方、ラテンアメリカ以外の地域を対象とする場合であっても研究テーマがこういったトピックに関連しているのであれば、指導は可能ですし、またはグローバル化や地域経済統合の影響に関する（特定地域に限定しない）クロスカントリーのデータを使用した研究でも指導は可能です。ただし、ラテンアメリカ以外の地域のデータ、特に英語とスペイン語以外の言語で書かれたマイクロデータを使用する場合は、ゼミ生の方でデータ入手と質問票の解読は責任をもって行っていただく必要があります。

なお私は実証研究を専門にしていますが、私がこれまでやってきた研究はマイクロデータを含めすべて二次データを使用したものであり、現地にてフィールドワークを行って収集したものではありません。現在、私は複数の二次データをうまく組み合わせてできるだけユニークな実証研究を行うという問題意識で研究を行っています。特に修士課程においては、実際に現地に行ってデータを独自に収集することは現実的でなく、ゼミ生の皆さんも二次データを使用することを前提に、データの収集、クリーニング、データセットの構築が正確に行い、それをを用いて実証研究を行うことができるように指導を行います。

いずれにしても、指導教員とのミスマッチを避けるためにも、ゼミを希望する方の研究テーマ・方法論が私で指導可能であるかは、しっかりと事前に面談を行って確認する必要があります。経済学研究科の博士課程前期課程への入学が決まり私のゼミに参加することを考え

ている方は、上記の通り、できるだけ早くメールでアポイントをとって面談を行うようお願いいたします。

博士課程後期課程について

以下では、博士課程後期課程に内部進学する場合について書きます。博士課程後期課程から編入する場合は、別途相談してください。私が主査として博士論文の審査を行う場合、（本学経済学研究科における博士論文で通常そうであると思いますが）基本的に最低 3 本の論文の執筆を求めます。より詳細には、

- ・修士論文を改定したものを査読付き英文ジャーナルに投稿すること。
- ・最低 1 本（もちろん 2 本であれば望ましい）、ジョブマーケットペーパーとなりうる、因果推論に基づく実証論文を執筆すること。
- ・最後の 1 本については、必ずしも厳密な因果推論といえるレベルでなくても構わない。

なお、私は博士論文の提出において、それを構成する論文が「査読付き英文ジャーナルにアクセプトされること」は要件としません。これまでの私の経験を振り返っても、ジャーナルにアクセプトされるか否かは運にも左右されますし、また博士課程後期課程の段階であせって業績を作るために、無理にアクセプトされやすそうなジャーナルに出す必要もないと考えるためです。ジョブマーケットペーパーになりうる論文かの判断基準は、「Web of Science に収録されている定評のあるジャーナルに投稿して、少なくとも desk reject を通過し under review になる見込みがあるかどうか」と考えています。また、私は博士論文が全体として一つの話になっていることも取り立てて求めない予定です。テーマや対象があまりにバラバラであるのは困りますが、ある程度の範囲に収まっていれば、いわゆる”Three Essays on...”タイプの博士論文で構いません。それよりも、博士論文を構成する各章のジャーナルに投稿する論文としての完成度を重視します。前述通り、博士論文は英語で執筆することを求めます。

ゼミ生の状況

このゼミは 2021 年度から開講した新しいゼミですので、まだ修了者は多くはありません。修士論文のタイトルを以下で記載します。

修了年月	修士論文タイトル	進路
2023.9	地域経済統合の「深さ」が日本の対外直接投資に及ぼす影響*	就職
2024.3	The Impacts of Land Reforms on Land Productivity in Cuba: Evidence from Crop-Level Panel Data	進学
2025.3 (予定)	The Impacts of FDI on Income Inequality: Evidence from Developing Countries	進学(予定)

*は第二ゼミ・副査として指導

現在までのところ、副査としての指導を含めて3名が修了（予定）であり、修士課程1年生1名を含めると、ゼミ生の研究テーマとしてはラテンアメリカの特定の国に関する実証研究と、FDIに関するクロスカントリーでの実証研究が1対1の比率になっています。また博士課程後期課程への進学（希望）者の比率が高いのも特徴で、修了者の皆さんは英語でしっかりと修士論文を完成させています。

なお、ラテンアメリカ地域の研究を行い、基本的なスペイン語を習得済みの院生を対象に、不定期でスペイン語の文献を読む自主ゼミを行っています。こちらへの参加はもちろん任意です。